

資料館だより

第 25 号
令和3年3月



《巻頭写真》出張授業の様子

(関連2~3ページ)

目 次

目次・巻頭写真	1
コロナ禍での展示・公開事業	2
柴崎分水を歩く	4
資料紹介 砂川闘争の歴史を物語る 一枚の雑巾	10
令和2年度 資料館・古民家園の催し	13

コロナ禍での展示・公開事業

令和2年度のスタートは、1回目の緊急事態宣言中（東京都は5月25日解除）だったため、休館・休園からのスタートとなりました。6月2日（1日は月曜日だったため休館・休園）からは開館・開園となりましたが、新型コロナウィルス感染症防止対策のため、あらゆる資料館活動に制約がかかり、例年どおりの活動ができずに試行錯誤のなかでの開館となりました。資料館・古民家園で例年開催している体験学習も、試飲食を伴うものは感染リスクに係るとして中止し、また、講師の先生方に間近で指導をうける「はた織りまつり」なども中止せざるを得ませんでした。そのようななかで、入館人数を制限するだけで、いちばん資料館の活動として実施しやすかったのが資料展示です。

常設展示では、ラウンジにある机やイスの数の間引きやマーカー（設置位置の印付け）を行い、ソーシャルディスタンスの確保に努め、資料館や古民家園の入り口には手指用の消毒液を設置し、入館・入園者への感染防止対策の協力をお願いしました。関連して、ハンズオン資料は触れられないように引き下げ、映像コーナーのス

イッチには来館者が自由に押せないようカバーをかぶせ、映像を見たい場合には職員への声かけをお願いしました。また、館内環境を清浄に保てるよう、清掃、アルコール消毒、換気をよりこまめに実施するよう努めています。

今年度の企画展示は、ミニ企画展を除き、6月の「新収蔵品展」、7月の「立川の遺跡 2020」、「記念物 100 年」、9月の「立川の機織り」、「立川駅前の移り変わり」10月の「東京 1964 オリンピック立川の記憶ー」、「文化財写真展」、12月の写真展「立川の風景と人のいとなみー未来に伝えたいからものー」、1月の「暮らしと道具ーきれいな生活のためにー」の9回行いました。

企画展開催にあたり、留意した点は、通常ですとさまざまな資料を展示、公開したいという観点から、展示ケースを複雑に組んで会場を構成しますが、このような状況でしたので、できるだけシンプルに、見学（動線）の空間を広めにとるという工夫をしました。かつ、観覧者の動線が重ならないよう、順路指示のパネルをこまめに設置し、会場の入口・出口を分けるように構成しました。遺跡展や、

昔の道具展で毎回行っているギャラリートークや、体験作業（マイギリ式火起こし、「黒曜石で紙を切ってみよう」コーナー）も、密を避けられない状況となる可能性があるため中止としました。また、広報活動ですが、市民がモノ（不特定多数の方が触れる可能性のあるもの）に触れる機会を少なくした方がいいのではないかと考え、例年は発行・配布しているチラシを取りやめ、紙媒体の宣伝はあえてポスターのみとし、ホームページや「広報たちかわ」での告知のほか、5月1日から開設した公式Twitterでの告知のみとしました。例年どおりの広報活動は行えませんでしたが、各企画展には多くの市民にご来場いただきました。

また、資料の公開事業ですが、例年ならば小学3年生に向けて常設展示の見学と昔の道具の授業を資料館や古民家園で行っていますが、今年度は入館・入園者数に制限がかかっていたため、結果的に小学校ひと学年の団体見学受け入れはできませんでした（特別支援学級などの少人数の見学は受け入れました）。ハンズオン資料の展示・公開を自粛したとはいえ、「昔の道具」資料については原資料を見て・触って・考えることに意義があると思い、どうすれば感染予防

しつつ公開できるかを考えた結果、小学校へ昔の道具を持ち込んで、出張授業を行うこととしました。ただし、実施にあたり注意したのが、大切な原資料そのものをアルコール消毒することはできませんし、ウイルスの生存日数の確証も得られないことから、出張授業依頼の受け入れを1週間に1校と決めました。結果、市内19校の小学校のうち10校の依頼を受け、授業を行うことができました（実際はそれ以上に依頼のお電話がありましたが、1週間ごとの制約を受けると日程的にこれ以上の受け入れはできませんでした）。意外にも、たっぷり45分間かけて昔の道具の授業ができたため、担任の先生方からは好評を得ました。

これには、感染拡大が続いていた状況にも関わらず子どもたちのためにと、快く授業を引き受けてくださった学校教育支援ボランティアさん2名のご協力なくしてはできなかったと思います。この場をお借りしてお礼を申し上げます。



市立新生小学校での「昔の道具」出張授業

柴崎分水を歩く

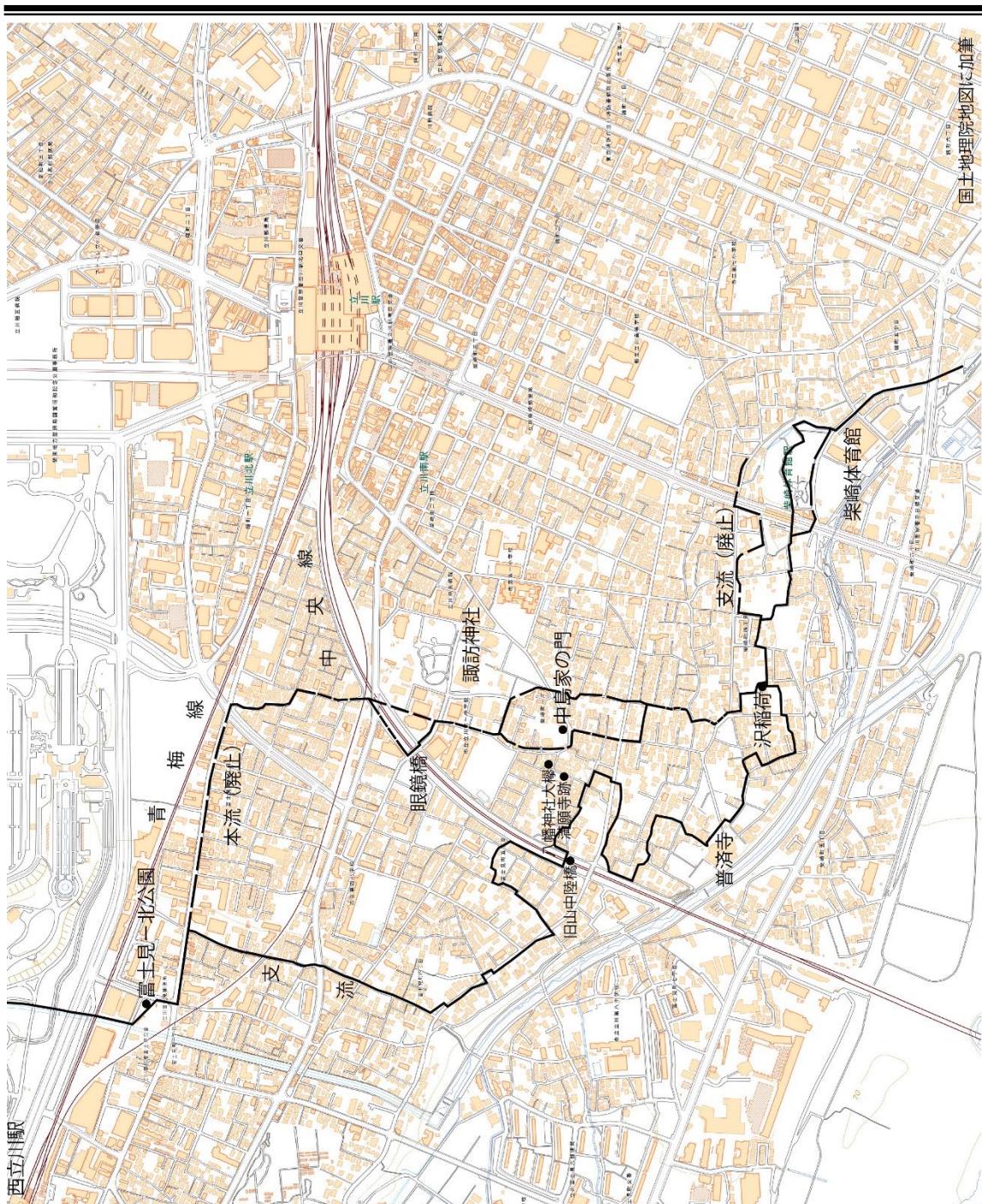
令和2年度は、新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、歴史民俗資料館開催のイベントは、開催中止や企画の変更などを余儀なくされました。市内文化財散歩「柴崎分水を歩く」は、「密」を避けるため、毎年20人募集のところを15名に変更し、3月14日(日)に開催しました。講師には市文化財保護審議会委員・産業遺産学会水車と臼分科会代表の小坂克信氏を迎えました。

この講座は毎年参加希望者が多く、定員以上の応募があるのでですが、今年は前述したように定員を少なくしたので、希望者の半分以上をお断りすることとなりました。参加できなった方のために、資料館だより誌上で「市内歴史散歩 柴崎分水を歩く」を掲載します。

柴崎分水は玉川上水から引かれています。『上水記』によれば、元文2年(1737)に分水を引く許可が下り、柴崎村(立川市の南



柴崎分水・芋窪分水



富士見町～錦町 柴崎分水詳細図

半) と芋窪新田 (立川市栄町の一部) に給水し、生活用水・灌漑用
水として使われていました。玉川
上水の松中橋上流に分水口があり、
昭島市、立川市一番町、国営昭和
記念公園内、富士見町、柴崎町、

錦町等を通り、根川につながって
いました。

今回の講座では国営昭和記念公
園の南側、青梅線を横断するところ
からスタートして、できるだけ
柴崎分水沿いに柴崎体育館北側の

立川公園まで歩きました。午前9時30分、青梅線西立川駅に集合。直前にキャンセルがあり参加者は12名でした。青梅線が残堀川を渡る鉄橋の東側で柴崎分水は青梅線の下を流れています。線路が浸水しないように、水量が多い時は残堀川に水が落ちるようになっています。青梅線を渡ると残堀川に沿って暗渠^{あんきょ}で南下したのち、富士見一北公園の南縁を流れます。この部分は流れに沿って歩けないので、東へ迂回し、青梅線の「航空支庁前踏切」を渡ります。この踏切の北には第二次世界大戦の終戦前は日本陸軍の航空工廠立川支廠の正門があり、踏切名は昭和記念公園がかつて立川飛行場であったことを今に伝えています。

踏切を渡り富士見一北公園に向かいます。ここはかつて石川水車があった場所です。石川水車は明治44年（1911）～昭和14年（1939）に稼働し、精穀に使われていました。



青梅線の下を流れる柴崎分水

分水は公園から南下し、コンビニエンスストア前の交差点から東に向かって流れます。東に160m程行くと富士見町2丁目交差点です。この地点で本流と支流に分かれます。水量の割合は本流7で支流3でした。本流は昭和40年頃に廃止になっています。支流はここで南に流れを変えますが、本流はそのまま東へ流れ、眼鏡橋や諏訪神社を通り、沢稻荷付近で支流と合流していました。

南下した支流は道路沿いに奥多摩街道まで流れます。奥多摩街道に出ると東へ向かいます。この付近から開渠^{かいきょ}の区間が多くなります。奥多摩街道を北や南に横断しながら、奥多摩街道を東へ向かい次の信号付近で流れを変え、北に向かいます。北に向う途中に、旧柴崎村の名主家の門があり、門を過ぎしばらくすると東へ向かいます。この区間は家々の間を流れ道路には面していません。中央線付近で



富士見一北公園
植込みの下を分水が流れている

南に流れを変えます。この周辺は「山中」といって旧柴崎村の中心のひとつです。

立川のもうひとつの代表的な分水である砂川分水が、五日市街道沿いに直線的に流れているのに対し、このように曲がって流れるのは、砂川村が分水開削後に五日市街道沿いに家が建てられているのに対し、柴崎分水は既存の村の家々に給水するために、曲がって流れているのです。

明治 22 年 (1889) に甲武鉄道(現 JR 中央線)が造られた際、立川駅より西は堀割に線路が敷設されました。そのままでは柴崎分水が分断されてしまうので、流路を変更し山中陸橋を造り、柴崎分水は木製の^{とい}樋で渡っていました。この光景は立川村十二景の「山中陸橋」に描かれています。昭和 10 年代に奥多摩街道が整備された際に、山中陸橋は現在の位置(南)に移されました。柴崎分水はこの

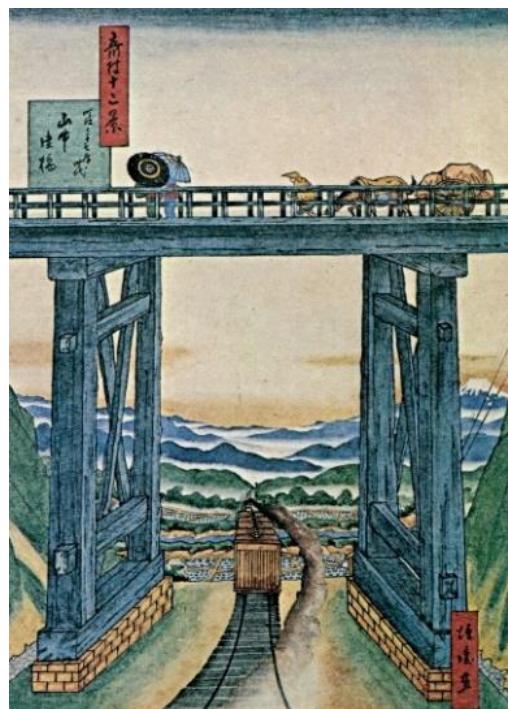


門前を流れる柴崎分水

時、鉄製の樋に架け替えられたと考えられます。この鉄製の樋も老朽化のため平成 29 年 (2017) に現在の鋼管に代わりました。

中央線を渡った柴崎分水は、線路沿いに北へと向かいます。ここ のコーナーに洗い場があります。洗い場は他にも数か所遺されています。そのまま道路を東へと向かい、しばらく行くと、北に流れた柴崎分水が戻って道路沿いに東へ流れ、途中から開渠になります。この道は諏訪神社・八幡神社周辺から山中の集落を結ぶ重要な道でした。

東へ向かう道の途中で柴崎分水は南の普済寺方面に向かいますが、講座では柴崎分水を離れ、北方面に向かいました。少し戻り北



立川村十二景 山中陸橋

に行くと市指定史跡「満願寺跡」や市指定天然記念物「八幡神社大けやき櫻」があります。満願寺は、江戸時代元禄期に荒廃していた東光院という寺院を黄檗宗の僧別峰が医王山満願寺として再興しました。以来地域の人々の信仰を集めていますが、明治8年（1875）に廃仏毀釈で廃寺になり、今では井戸が残っているだけです。

八幡神社は中世に立川周辺を領地にしていた立川氏の氏神として、建長4年（1252）に創建され、大櫻の北側に境内がありました。現在では諏訪神社に合祀されています。大櫻は八幡神社創建時に植えられたと伝えられています。

大櫻からさらに東へ向かうと、旧中嶋家の門があります。中嶋家は旧柴崎村の年番名主を務め、この門は幕末の代官、江川太郎左衛門宅にあったものを譲り受けたものだと伝えられています。門の前をかつて本流が流れています。



洗い場

には中嶋水車がありました。中嶋水車は天明元年（1781）～昭和5年（1930）頃稼働しており、製穀・製粉・撚糸に使われていました。

旧柴崎村ゆかりの文化財を見学した後、柴崎分水に戻りました。奥多摩街道に出ると分水は西へ流れています。この付近では地面から水面までかなり深くなっています。中央線手前で流れを南に変え、普済寺方面に流れて行きます。

玄武山普済寺は、立川氏の菩提寺として南北朝時代の文和2年（1353）に、当時の高僧、鎌倉建長寺の物外可什禪師を招いて開山した古刹です。本堂の東側には土壘が遺されており、東京都指定史跡「立川氏館跡」に指定されています。

柴崎分水は普済寺境内を抜けて、さらに東へ沢稻荷へと流れています。この区間も比較的開渠が多く旧状をうかがうことができます。



普済寺本堂・土壘・柴崎分水

沢稻荷は小高い塚で、頂きにはお稲荷様が祀られています。7～8世紀の古墳ではないかと考えられています。沢稻荷の東で本流と支流が合流していました。

合流した柴崎分水は、東へ向かい、都営アパートの南側で、本流と支流に分岐していました。本流は南へと流れますが、支流はそのまま東へ流れ、第六天神前を経て、旧多摩教育センター付近で矢川に合流していました。

分岐点の南には小川水車がありました。この場所は個人宅の敷地内ですが、ご厚意により見学にさせて頂きました。小川水車は寛政3年（1791）～大正15年

（1926）頃まで稼働していました。精穀・製粉に使われていました。柴崎分水は水車の手前で東側の隣地に入り、立川段丘の崖を一気に降ります。段丘下からは東へ流れます。

多摩モノレールの柴崎体育館駅



柴崎分水と沢稻荷

の手前に、今は使われていませんが、南へ分かれる分岐点があります。分岐点を過ぎ、柴崎体育館駅の下をくぐると立川公園です。立川公園の真ん中を柴崎分水が流れています。公園の南縁には水が流れていない水路があり、先ほどの分岐点につながっています。公園内にある水田は、今でも学習田として使われています。

3月14日の開催当日は、9時30分に西立川駅に集合して、9時40分に出発しました。説明を聞きながらおよそ5kmを歩いて、誰一人リタイヤすることなく、12時過ぎに立川公園に到着しました。講座では立川公園で解散しましたが、柴崎分水はこの後、柴崎体育館の北側・立川市錦町下水処理場の北側を流れ、甲州街道を過ぎたところで根川に合流しています。かつては新奥多摩街道を根川がくぐった地点で合流していました。



根川(左)と柴崎分水(中央)の合流地点

資料紹介 砂川鬪争の歴史を物語る 一枚の雑巾



ぞうきん
雑巾一おそらく幼い頃から使ったことのある、いちばん馴染み深い掃除道具のひとつだと思います。民俗資料として、雑巾を受け入れている博物館は案外少ないので、しきりませんが、当館は雑巾の資料を所蔵しています。

「雑巾なんて博物館の資料になるの！？」とお思いになるかもしれません、たかが雑巾と侮ってはいけません。そこには想像をはるかに超える歴史が刻まれているのです。今回はそんな雑巾の一枚にスポットを当てて、立川の歴史を振り返ってみたいと思います。

例年1月中旬から2月中旬にかけて、当館では小学校3年生の社

会科単元
「人々の暮らしの移り変わり」に合わせて、「昔の暮らしの道具」を主なテーマに企画展を行っています。

今年度は、企画展「暮らしの道具一き

れいな生活のために一」と題し、新型コロナウイルス感染症予防のために身の回りの衛生環境を考えた一年を振り返って、ネズミ捕りや蠅捕り棒など、当館が所蔵する昔の衛生関係の資料をメインに据えて展示を行いました。その企画段階の時に遡りますが、現在編さんを進めている『新編立川市史』の民俗・地誌部会調査が当館内であったため、数々の民俗資料を出納していました。そのなかに、かつて市民が着用していた着物や帽子などのほか、雑巾もあり、企画展「昔の暮らしの道具」の企画構想を練るなかで、これらの雑巾も展示しようと考えました。

現在では 100 円均一ショップ

などで購入した、使い捨てのダスター や化纖のマイクロファイバー 製のものを雑巾として使う方が多いかもしれません。昔の物が少ない時代は布も貴重だったため、雑巾には使い古しの和服や洋服、手拭いなどの古布を用いて、一枚一枚手作りしました。そのため素材も柄も様々で、いろいろな布を継ぎ接ぎして作りました。所蔵資料の雑巾も、使い勝手のいいように、どこを拭いていても布の継ぎ目が引っかからないように丁寧に縫い合わされています。今となってはその継ぎ接ぎの部分がパッチワーク製品のよう、とてもキュートに見えます（写真 1 参照）。展示するにあたり、資料詳細の調査を行っていた過程で、これらの雑巾を一枚一枚めくって確認してみると、古着の布のもの、北多摩郡養蚕農業協同組合の手拭いのものや、立川の個人商店の手拭いのものほか、見覚えのある布を使った雑巾がありました。それが今回取り上げる砂川闘争の鉢巻として使用された、赤字で「決死」と染め抜かれた（プリントされた？）手拭いの古布を使った雑巾です。

雑巾は、おそらく使用する際に手拭いの染め（プリントか）の部分が掃除の邪魔にならないようにとの意図で、裏面を表側にして縫

われています（写真 2 参照）。

砂川闘争とは、米軍立川基地の



写真2 雜巾の全容



写真2 手拭いの裏面を表にして縫製

拡張をめぐって昭和 30 年（1955）から約 15 年間にわたり旧砂川町地区で続いた大きな住民運動です。地元住民と警官隊との激しい攻防によって多くの負傷者をだしました。

この雑巾の元となった手拭いは、砂川町の地元住民たちが反対運動のさなか、鉢巻として頭に巻いていたもので、いわば運動の象徴となるようなものでした。当時の闘争写真にも、手拭いを頭に巻いて活動している住民たちの姿が多く写っています。

この雑巾をさらに詳しく調べてみると、寄贈者は青木市五郎さんで、雑巾は他の着物などの多くの民俗資料とともに平成 5 年（1993）に寄贈された資料とい

うことが分かりました。青木市五郎さんといえば、砂川闘争当時、砂川町基地拡張反対同盟の行動隊長として、闘争の中心にいた人物です（写真3参照）。青木さんは



写真3 新海寛雄画「行動隊長 青木市五郎」(当館所蔵)

反対の地元住民代表として、デモ行進の先陣や拡張反対派議員への状況説明など、運動に邁進しました。反対集会における青木さんの「土地に杭は打たれても、心に杭は打たれない」という言葉は、闘争を象徴する合言葉となりました。その後、砂川闘争は昭和43年（1968）にアメリカ軍による基地滑走路拡張計画が中止となったことで、国も土地の収用認定を取り消し、終息をみました。

この雑巾を解きなおして、『砂川闘争の手拭い』として改めてこの雑巾のみ再整理した方がいいのでは？という意見もありましたが、資料整理担当としては、この資料

をあえて雑巾のまま保存していくことに意義があると考えました。砂川闘争代表者のもので、一致団結のシンボルであった鉢巻の手拭が、数十年の時を経て、ボロ布として雑巾に仕立てられるようになるまでの、人々の感情や世情、意識の変化とともに、時代の移り変わりや歴史の流れが、この雑巾には刻まれていると考えたからです。

今回は市史編さんのための民俗調査が重なったことで新たな発見ができましたが、日常の業務をしながらの詳細な資料整理・目録作成には限界があります。とくに今回のように膨大な量の資料を一括で受け入れた場合、寄贈者の方にとっても“よくわからないモノ”であることも多くあるため、もともとの資料情報がほぼない状態のまま受入れることになります。日常の業務に追われながらとなると、どうしても個々の資料の綿密な調査・研究は後回しにならざるを得ません。寄贈資料の受け入れ段階で、細やかに調査や研究を同時にを行い、目録や台帳に反映するのはなかなか難しいというのが現状ですが、寄贈者から聞き取った貴重な資料情報は適切に遺し、後世に伝えていけるように、可能な限り丁寧な仕事を心がけていきたいと思います。

令和2年度 資料館・古民家園の催し

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策で、令和2年3月1日（日）～6月1日（月）まで、一般公開を中止しました。感染防止のため、博物館のガイドラインに従いながら、企画展・体験学習などの催しを行いました。その中の一部を紹介いたします。

1. 企画展 東京 1964 オリンピック立川の記憶一

令和2年7月に開幕予定であった東京オリンピック 2020 大会に関連する企画で、当初はオリンピック開幕前の6月～7月開催の予定でしたが、オリンピック・パラリンピックの1年間の延期を受け、秋の企画展に変更となり、10月27日（火）～12月13日（日）に開催しました。展示では、立川市内が会場となった自転車競技や聖火リレーの様子の紹介や当時の社会状況について展示しました。



2. 企画展 立川の機織り

8月23日（日）に開催予定で

あつたとんからりん機織りまつり・夏が、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、機織り体験などが中止となり、別途企画展を開催しました。期間は9月8日（火）～10月11日（日）で、ボランティアサークルとんからりん機織りクラブの皆さん的作品展示のほか、立川周辺の織物（村山大島紬など）を展示しました。



3. 体験学習

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため試食を伴う伝統食の講座は中止になってしまいました。屋外を散策する講座は「密」を避けるために定員を減らして実施しました。



根川と多摩川の自然観察

令和2年度 企画展

展示名	期間	場所
ミニ企画展 端午の節句	4/7 (火) ~5/10 (日) 予定 一般公開中止	資料館・ 古民家園
企画展 新収蔵品展	6/16 (火) ~7/12 (日)	資料館
ミニ企画展 七夕飾り	6/30 (火) ~7/7 (火)	資料館・ 古民家園
企画展 立川の遺跡 2020	7/21 (火) ~8/30 (日)	資料館
企画展 記念物 100 年	7/21 (火) ~8/30 (日)	資料館
写真展 立川駅前の移り変わり	9/5 (土) ~10/4 (日)	資料館
とんからりんはた織りまつり企画展 立川の機織り	9/8 (火) ~10/11 (日)	資料館
企画展 東京 1964 オリンピック立川の記憶ー	10/27 (火) ~12/13 (日)	資料館
東京文化財ウィーク 2020 公開事業 銅鉦鼓展	10/27 (火) ~11/29 (日)	資料館
写真展 文化財写真展	10/27 (火) ~11/29 (日)	資料館
写真展 立川の風景と人のいとなみ	12/8 (火) ~2/14 (日)	資料館
企画展 暮らしと道具ーきれいな生活のためにー	1/19 (火) ~2/21 (日)	資料館
ミニ企画展 桃の節句	2/2 (火) ~3/7 (日)	資料館・ 古民家園

令和2年度 体験学習(1)

場所	講座名	実施日	人数
歴史民俗資料館	手打ちそば作り	6/7 (日)	※1
	染物体験	7/12 (日)	※1
	手打ちうどん作りと十五夜飾り	9/6 (日)	※3
	もちつきと鏡餅作り	12/13 (日)	22
	繭玉飾り	1/11 (月祝)	※1
	手打ちそば作り	2/14 (日)	※1
古民家園	麦刈り体験	5/24(日)	※1
	麦脱穀体験	6/28 (日)	※1
	さつま芋収穫体験	10/18 (日)	21

令和2年度 体験学習 (2)

場 所	講 座 名	実 施 日	人 数
市 内	根川と多摩川の自然観察	4/5 (日)	※1
	玉川上水沿いの自然観察	5/22 (金)	※1
	市内文化財散歩 玉川上水を歩く	10/11 (日)	※2
	根川と多摩川の自然観察	10/25 (日)	16
	市内文化財散歩 立川の古村を歩く	11/1 (日)	15
	市内文化財散歩 柴崎分水を歩く	3/14 (日)	12
	市内文化財散歩 玉川上水を歩く	3/28 (日)	12

令和2年度 出張事業

事 業 名	期 間	場 所
出張講座 立川の遺跡に学ぶ (星槎国際高等学校考古学ゼミ)	9/14 (月)	星槎国際高等学校 立川学習センター
出張講座 昔の道具体験 (市立南砂小学校3年生)	1/22 (金)	市立南砂小学校
出張講座 昔の道具体験 (市立第一小学校3年生)	1/27 (水)	市立第一小学校
出張講座 昔の道具体験 (市立若葉台小学校3年生)	2/4 (木)	市立若葉台小学校
出張講座 昔の道具体験 (市立第三小学校3年生)	2/9 (火)	市立第三小学校
出張講座 昔の道具体験 (市立第五小学校3年生)	2/16 (火)	市立第五小学校
出張講座 昔の道具体験 (市立西砂小学校3年生)	2/25 (火)	市立西砂小学校
出張講座 昔の道具体験 (市立柏小学校3年生)	3/2 (火)	市立柏小学校
出張講座 昔の道具体験 (市立松中小学校3年生)	3/11 (木)	市立松中小学校
出張講座 昔の道具体験 (市立新生小学校3年生)	3/16 (火)	市立新生小学校
出張講座 昔の道具体験 (市立第九小学校3年生)	3/23 (火)	市立第九小学校

令和2年度 講演会

名 称	会 場	実 施 日	人 数
「近代立川の水利用」 ① 玉川上水の分水の水利用	歴史民俗資料館	2/21 (日)	14
「近代立川の水利用」 ② 武蔵野台地と立川の水車	歴史民俗資料館	2/28 (日)	11

令和2年度 その他事業

事 業 名	期 間	場 所
第16回はた織りまつり・夏	8/23 (日) 展示のみ実施	資料館
第17回はた織りまつり・春	3/21 (日) ※1	資料館

※1 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため開催中止

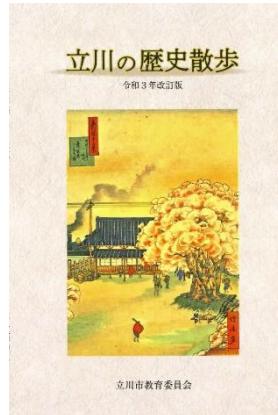
※2 荒天のため開催中止

※3 講師の実演のみで参加者はなし

新刊のお知らせ

『立川の歴史散歩 令和3年改訂版』 発行

平成2年に刊行した『立川の歴史散歩』が完売となっていたため再編集し、改訂版を刊行いたしました。B5版からA5版に変更し、写真もオールカラーとしました。頒布価格 700円
歴史民俗資料館・市政情報センター（市役所3F）・オリオン書房ノルテ店にて販売。



立川市歴史民俗資料館
公式 Twitter
はじめました!!

企画展や体験学習などの資料館・古民家園のイベントのほか、立川市内の歴史や自然のことなど、色々な情報を発信していきます！



@tachikawa_rekim

資料館だより 第25号

発 行 日 2021年(令和3年)3月31日

編集・発行 立川市歴史民俗資料館

(立川市教育委員会教育部生涯学習推進センター文化財係)

住 所 〒190-0013 立川市富士見町3丁目12番34号

TEL:042-525-0860 FAX:042-525-1236